



第33号



ECOMAIL

関西 ECOMAIL

関西支部会員のみなさまに、ワークショップのお知らせや環境教育に関わる情報の交換をしていただくために発行しています。

また、学会員以外の方々と、環境教育に関心をもっておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションを広く図りたいと思っています。

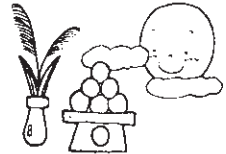
日本環境教育学会会員のみなさまには支部会費、会員でない方には購読費として、年間1500円をいただきましたら、ワークショップの案内とこの関西 ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振り込み先: 日本環境教育学会 関西支部 郵便振替口座

00990-5-37886)

第52回ワークショップご案内

日時 平成8年9月14日(土) 14:00~16:00
 場所 財団法人千里リサイクルプラザ
 (吹田市千里万博公園4番3号) TEL 06-877-5300
 話題 「千里リサイクルプラザの取り組み」



6つの工房をはじめ同プラザの施設見学、市民研究所や環境教育の講座など、施策に関するお話をうかがいます。

(同施設は、ゴミのリサイクルに関する機関)

集合場所

大阪モノレール「万博記念公園」下車。

改札口に、同日午後1時30分集合。

各位集合して(徒歩約15分)、プラザへ行きます。

※同プラザのご協力により開催しますので、時間に遅れないよう注意して下さい。

※地下鉄御堂筋線「千里中央」でモノレールに乗り換え。

阪急京都線「南茨木」でモノレールに乗り換え。

(「万博記念競技場」の隣りにプラザがあります。)



第33号 目次

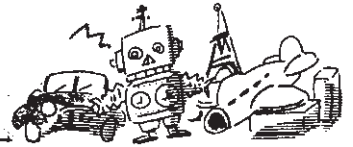
- ・「カナダ・バンクーバー島
ネイチャーツアー」のお知らせ
(日本ユースホステル協会) … 2~3
- ・連載企画<阪神・淡路発!被災地は今>
「見近な自然を生かした地学教材の開発と授業実践
(秋吉博之・兵庫県加西市立北条中学校) … 4~5
- ・日本環境教育学会 関西支部 協力事業
「すいた環境教育フェア'96」(6/8)前号よりの続き
「社会の仕組みとライフスタイルの変革」(田代智恵子記録) … 6
- ・ネットワーク … 7~8





カナダ・バンクーバー島

ネイチャーツアー



申込方法

- 期 間：1996年10月5日(土)～13日(日)
- 参加費用：368,000円
- 募集人員：15名(最低催行人員10名) *定員になり次第締め切らせていただきます。
- ツアーリーダー：(財)京都ユースホステル協会職員が同行いたします。
- 申込方法：お電話、又はFAXにて下記までお申込下さい。後日、申込書をお送りいたしますので、申込書に必要事項を記入の上、申込金60,000円(参加費用に充当します)を郵便振り替えにてお振込み下さい。

(財)京都ユースホステル協会・環境教育事業部
TEL 075-462-9185 FAX 075-462-2289

主催
運輸大臣登録一般旅行業第485号
(財)日本ユースホステル協会
 101 東京都千代田区三崎町2-20-7水道橋西口会館2F
TEL 03-3288-0260 FAX 03-3288-1490

お問い合わせ・お申し込み
京都府知事登録旅行者代理業第22号
(財)日本ユースホステル協会代理業
(財)京都ユースホステル協会
〒616 京都市右京区太秦中山町29
TEL 075-462-9185 FAX 075-462-2289
一般旅行業務取扱主任者 片野明

一般旅行業務取扱主任者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく取扱主任者にお尋ね下さい。

〈阪神・淡路発！被災地は今〉

身近な自然を生かした地学教材の開発と授業実践

秋吉 博之（兵庫県加西市立北条中学校）

I はじめに

兵庫県南部地震によって大きな被害が起きたのは周知のことである。身近なところでは神戸市灘区の親戚の家が倒壊し、神戸大学に通学する友人も被災した。地震の翌日に神戸市北区から六甲トンネルを抜けて国道2号線までたどり着いたとき、被災の大きさに驚くばかりであった。見慣れた景色は一変していた。渋滞して車がほとんど動かない国道、傾いた家の横を大阪方面にひたすら歩く人々の列があった。そのとき持参した弁当や水は、被災地にとって貴重品であった。余震におびえながら傾いた屋根にシートをかぶせ、家財道具を運び出した。

前勤務校である兵庫教育大学附属中学校のほとんどの生徒が地震の大きな揺れを経験し、家庭で食器が割れるなどの被害を受けた者もいる。これらの生徒を対象に防災教育を意図した授業を理科の地学領域で行った。

II 実践の経緯

これまで筆者らは学校周辺での地学教材の開発を行い、効果的な自然観察の指導方法を検討してきた¹⁾。巡検地の地層調査を行い次いで中学生3年生114名を3回に分けて引率して、露頭での観察を行った。これらの生徒への調査から野外観察での指導方法について検討を行った。これによって、次のことが明らかになった。野外で堆積物を区別させることは容易ではない。また不整合の理解には、生徒によって差がある。さらに断層の場所を確認できる生徒は多かったが、その説明については不十分とはいえない。したがって、レキ岩や砂層等の堆積構造を生徒に理解させるためには、数回の野外観察が必要である。日本のように地殻変動の激しい地域では、断層について生徒に理解を深めさせることは重要である。この調査をふまえてさらに野外観察の指導方法を検討してきた。

III 理科における防災教育

学校での防災教育について、木谷要治氏は「自然災害の由来や構造についての理解を持たせ、過去の災害についての情報を与え、災害の原因と経緯についての知識を持つことがいかに大事か、その知識の有無がどんな差異をもたらすかを過去の具体的な事例に基づいて指導すると態度も変容してくるものである。」と述べている²⁾。

IV 教材の開発と授業実践

地殻の変動についての学習を終えた後、発展的な内容として、生徒のレポートをもとに兵庫県南部地震から兵庫県加東郡社町に見られる地質変動に関する授業を行った。

○教材

MBS震災関連報道テレビ番組（近畿地方の活断層）、神戸新聞震災関連記事（「大震災／地下で何が／検証・断層と地盤」①～③ その他）、生徒の作成した夏休みの課題報告書「身近な地域の地殻変動」

○授業実践

1. 次のテーマにそって考えさせた。

(1) 活断層、野島断層 ビデオ①視聴（野島断層4分）

(2) 神戸市市街地の被害—帯状 ビデオ②視聴（震災の帯2分）

(3) 山崎断層、供役断層 ビデオ③視聴（山崎断層6分）

(4) 加西市の防災への取り組み 資料①（加西市の防災記事）

2. 社町山国に見られる地形について考えさせた。

資料②ワークシート（六甲山の隆起）

V 生徒の感想

授業実践の後の感想には次のような記述があった。

■私たちの地域（学校のある所）は昔、川底だったなんて信じられないことだ。

■六甲山が高くなり続けていることを初めて知りました。また地元の地層をしれてよかったです。

■私は、社には地震がこないと思っていましたが、山崎断層がこのあたりを通っているということがわかり、すこしこわくなりました。

■近くに断層（山崎断層）があるとは知らなかった。もしものために、必要品をまとめておかなくちゃあぶないと思った。

■野島断層や山崎断層には、それぞれの特長がありおもしろいと思った。自分の身近なところでもいろいろな断層がたくさんあるとわかった。

これらをふまえて、さらに実践に取り組んでいきたい。

<文献>

1) 秋吉博之・藤岡達也, 学校教育学研究『効果的な自然観察指導のための実践的研究』, 1996, Vol. 8, pp. 129-137

2) 木谷要治・加藤裕之, 「理科で防災をどう教えるか」, 東洋館出版, 1990, P. 70

「社会の仕組みとライフスタイルの変革」

発表者①：環境家計簿の事例 本間 都（環境JIS研究会）

②：阪神大震災でのアスベスト調査等から気づいたこと
廣瀬弥生（吹田市消費者問題研究会）

③：環境にやさしい買物運動

長本政子（環境にやさしい商品評価委員会）



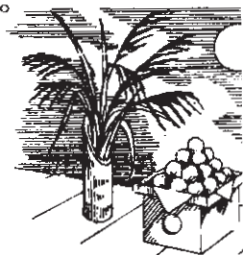
1970年代のいわゆる公害問題と、現在いわれている環境問題の違いのひとつとして、環境問題は被害者が同時に加害者となり得ることが、あげられる。そのため、ひとりひとりが自らの生活のありかたを見つめ直し、環境により負担の少ない生活を目指して行動する教育が重要である。特に、日本の消費者は意識が低く、国際社会に取り残されないように努力している企業よりも、遅れているとさえいわれる。イメージだけが先行したコマーシャルに引きずられたりしないよう、もっと自律した消費者になるための教育が必要ではないだろうか。

フロン入りの冷蔵庫や使い捨ての紙コップは、財布から払うものは安いかもしれないが、地球環境に対しては大きな迷惑をかけている。本間さんの発表した「環境家計簿」とは、自分の生活が環境に対してどれほど負担をかけているかを様々な項目に分けて評価するものである。消費電力やガスの熱量など具体的な量を扱っていることと、自分にあったレベルで続けられることが特徴である。

廣瀬さんは、阪神大震災の被災地で、解体される建物から出るアスベストの粉塵に注目した。発癌性のあるアスベストは、分解しないので、体内に吸い込まれるといつまでも残る。ビニールシートや薬品などである程度は防げるが、完全にはカバーしきれない。結局、アスベストを使った建物を壊すときに、近所に予告してひとりひとりがマスクなどで身を守るしかないという。

長本さんからは、環境に配慮したと認められる商品に、独自のマークをつけて推奨する活動の報告があった。トイレットペーパーのように、日常生活で多く使われるものほど、選定の効果は大きい。また、推奨商品を積極的に置いてくれる店を協力店に選定し、メーカーだけでなく、小売店にも環境に配慮した取り組みを求めている。冷蔵庫のように買い換えるまでに年月のかかるものは、推奨商品選定をしてもすぐモデルチェンジしてしまうのが、今後の課題である。

その後の質疑応答では、消費者運動と行政のかかわりあいについてや、推奨商品の基準についての話があった。



環境教育にとって、指導者の養成はたいへん重要なポイントです。その中でも、私たちをとりまく自然環境や環境問題について、学習者自身がいろいろな共同作業を通して、それぞれの感じ方や価値観を認め合いながら、学習者が共に学び合う場を作ってゆける指導者が求められています。

今回は、体験的な学習を援助する具体的な方法について、アメリカの学校や社会教育の場面でもっとも広く利用されている、「木」をテーマとした総合学習のアプローチである「PLT (Project Learning Tree-木と学ぼう)」の手法を学びます。

本セミナーは、昨年に引き続き実施されるもので、PLTの手法を身につけた環境教育指導者の養成と研修の機会となります。今後、ますますこうした参加・体験型学習を促す方法の指導者が求められてゆくことと思われます。この機会に、近畿近辺のみならず、全国各地からのご参加を期待いたします。

PLT (Project Learning Tree) とは！

「環境」といっても漠然としていてとらえどころがありません。そこで、私たちの身近にある「木」を通して環境に目を向け、環境に及ぼしている影響や責任について考えると同時に、環境の利用や保全に関して主体的に判断していける知識や能力、さらに、自分たちで考えたことを行動に移せる自信までも身につけていくよ手助けすることを目的としています。

PLTは1974年に開発されて以来、全米レベルでもっとも普及している環境教育の副教材です。さらに現在では、カナダ、スウェーデン、フィンランド、メキシコ、ブラジルでも使われています。

PLTの構成は、①「環境の意識化」、②「木々の多様な役割の理解」、③「森林の持つ社会的影響という文化的状況の理解」、④「森林を巡るいろいろな集団についての社会的な視点を学ぶ」、⑤「自然の管理と生態系の相互作用についての理解」、⑥「地球自体の生命維持システムの理解」、⑦「ライフスタイルの評価・修正」という段階的な学習体系を備え、それぞれの段階を追った活動を体系化しています。

また、最近改訂された活動集では、「生物の多様性」「相互依存関係」「社会の構造や規模」「システム」「変化のパターン」といった構成にあらためられ、これらの指導原理に基づいて具体的な活動が紹介されています。

日 程

1996年9月28日(土)～9月29日(日)
集会：午前10時 終了：午後4時

内 容

1日目(9/28)
イントロダクション(学びの雰囲気作り)/PLTの背景や使われ方/
PLTの活動を体験する/体験学習について/リーダーとして必要なこと/
環境教育の情報交換

2日目(9/29)
グループに別れてのPLTの指導計画作りと演習/
ワークショップの企画・運営のノウハウ

講 師

山本幹彦(財)京都ユース・ホステル協会 環境教育事業部

場 所

関西学院千刈キャンブ
〒669-13 兵庫県三田市香下1817-1
TEL 0795-63-5233

定 員

30人(定員に達し次第
締め切らせていただきます。)

主 催

(財)京都ユース・ホステル協会

参加費

16,000円
(学割14,000円)
* 1泊4食・テキスト・保険料を含む

後 援

環境庁・日本環境教育学会・京都市・京都市教育委員会・京都府教育委員会
国際理解教育資料情報センター(ERIC) 申請中

参加申込

下記の事務局まで、電話またはFAXにてお申込みください。

(財)京都ユース・ホステル協会 環境教育事業部

〒616 京都市右京区太秦中山町 29 京都市宇多野YH内
TEL 075-462-9185 FAX 075-482-2289 (担当) 山本、小西



郵便口座
名 義

01000-0-40090
(財)京都ユース・ホステル協会

ネットワーク 1996年度 第10期 関西NGO大学

国際理解・国際協力入門講座

□ 関西NGO大学の展望

関西NGO大学とは...

市民の国際理解をすすめる、国際社会がかかえる課題に取り組むNGO(非政府組織)の活動にかかわる人材を育てることを願って開催する講座です。

— 第10期テーマ —

「生活に根ざした開発と協力」

多くの課題を抱える国際社会の中で、大きな影響力をもつに至った私たちの住む日本。好むと好まざるにかかわらず、私たちの生活は、世界の人々と相互に深く結びついています。そこには、私たちが恩恵を受ける関係、相手が恩恵を受ける関係、相互に嬉しい関係だけでなく、害を及ぼす関係、迷惑をかける関係、搾取する関係も残念ながらあります。

私たちが働き、学び、遊び、暮らす日常の意思や行動が、知らず知らずのうちに、直接、もしくは政府や企業の方角性として世界につながることもあり、また積極的な意思を伴った個人の行動や、国際協力の活動となって表われることもあるでしょう。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの遠くの人々が彼ら自身の地域社会の生活向上に取り組むのと同じように、開発とはなにかを問い、そこから生活に根ざした協力について考え、行動を起こすことが、世界にいい関係でつながる基本だと思います。この6回のプログラムと参加者同士の出会いがその始まりになればと思います。

関西NGO協議会 議長 平田 哲 (関西セミナーハウス)

事務局長 角 正信 (大阪YMCA)

関西NGO大学 校長 藤野 達也 (PHD協会)

副校長 榎木 恵子 (日本林業労働組合)

調査・執筆

岡田 弘
狩野 登之助
志南 忠男
瀬口 和矩
建川 久美子
田中 正一
田中 文雄
中西 朝子
長井 成美
村上 幸子
本多 俊之

企画・編集

志南 忠男
村上 幸子
長井 美知夫

→ 手方法
詳細の
問い合わせは

下記
関西支部
事務局に

調査指導

小泉 茂樹

編集・発行

協賛

第10期関西NGO大学運営委員

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 荒川 共生 | 関西セミナーハウス | 高塚 昇弘 | 関西NGO大学修了 |
| 荒川 道 | 大阪YMCA | 戸田亜理子 | 大阪YMCA |
| 川崎 仁子 | 大阪YMCA | 浜本 裕子 | 関西NGO大学修了 |
| 佐藤真奈美 | 関西NGO大学修了 | 麦島真美子 | 関西NGO大学修了 |
| 貞富 信裕 | 関西NGO大学修了 | 和田みのり | 関西NGO大学修了 |
| 藤部 由紀 | 大阪YMCA | | |

□ 募集要項

◆ 募集期間: 1996年7月～1997年2月

◆ 対象: 国際理解・国際協力に関心のある方。一泊二日の全日程に参加できる方。(初めて参加される方、および全国参加される方を優先します。)

◆ 費用: ①全回参加受講料 20,000円 (登録費・資料代)
②部分参加受講料 1回 4,000円
尚、各回の宿泊・食事は別途実費が必要です。
(一泊朝食付 5,000円～8,500円)

◆ 定員: 50名

お申込み・お問い合わせ

関西NGO協議会 関西NGO大学事務局

〒550 大阪市西区土佐堀1-5-6

大阪YMCA土佐堀館 国際・社会奉仕センター内

TEL 06-441-5598

FAX 06-443-0739

— 自然って友だちやった! —

1996年3月31日 発行

財大阪自然環境保全協会・大阪シニア自然大学

〒531 大阪市北区豊崎2-4-5

TEL 06 (374) 3376 FAX 06 (374) 0608

財大阪コミュニティー財団 TOYO環境保護基金

©1996 財大阪自然環境保全協会・大阪シニア自然大学
但し、各学校園にて遠足に際し本冊子を利用される場合は、
遠慮なく複写してご活用下さい。

関西E COMAIL

第33号 1996年8月31日発行

編集 日本環境教育学会 関西支部 世話人会 広報委員会

発行 日本環境教育学会 関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室)気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 (TEL&FAX 0729-78-3381[直通])

次回 第34号 1996年10月26日発行予定 原稿必着期限10月20日

(原稿は広報委員の植田善太郎まで、直接郵送かFAXしていただく方が早く記事になります)

〒592 堺市浜寺石津町東2-3-35 TEL&FAX: 0722-47-2751)